

令和7年度 事業報告書

自 令和7年 4月 1日

至 令和8年 3月31日

社会福祉法人 有田つくし福祉会

1 法人の概要

主たる事務所所在地……………和歌山県有田郡湯浅町大字栖原187番地の1

電 話 番 号……………0737-64-1866

代 表 者 氏 名……………理事長 西林久子

法人認可年月日……………平成12年7月14日

法人認可番号……………441

設立登記年月日……………平成12年7月21日

2 法人の行う事業

事業の種類……………第2種社会福祉事業

拠点区分「つくし」

名 称……………つくし共同作業所

事業種別……………生活介護・就労継続支援B型（多機能型）

施設長名……………谷井由記

定員／日均利用者数……………35人／33.4人（配置基準換算30.2人）

フルタイム職員／パートタイム職員…8人／13人（年度末時点：併設分を含む）

備 考……………利用契約者数：40人（年度末時点）

名 称……………つくしんぼショート

事業種別……………障害者・児童日中一時支援（市町村所管：つくし共同作業所に併設）

拠点区分「早月」

名 称……………早月農園

事業種別……………就労継続支援B型

施設長名……………泉 秀和

定員／日均利用者数……………20人／17.5人

フルタイム職員／パートタイム職員…4人／8人（年度末時点）

就労支援事業指導員数……………2人（年度末時点）

備 考……………利用契約者数：20人（年度末時点）

拠点区分「オリーブ」

名 称……………カフェ＆ベーカリー・オリーブ

事業種別……………就労継続支援B型

施設長名……………有本 光

定員／日均利用者数……………20人／17.2人

フルタイム職員／パートタイム職員…4人／5人（年度末時点）

就労支援事業指導員数……………7人（年度末時点）

備 考…………… 利用契約者数：18人（年度末時点）

拠点区分「あっぱる」

名 称…………… あっぱるホーム

事業種別…………… 共同生活援助、短期入所（共同生活援助に併設）

施設長名…………… 有本 光

定員／日均入居者数…………… 13人／11.9人

短期入所定員／日均利用者数… 3人／0.6人（延べ183人）

フルタイム職員／パートタイム職員…………… 1人／17人（年度末時点：併設分を含む）

備 考…………… 入居契約者数：13人（年度末時点）

共同生活住居（ホーム）2箇所

拠点区分「センター」

名 称…………… 有田地域生活支援センターつくし

事業種別…………… 一般相談支援、特定・障害児相談支援、市町村相談支援（受託）、
精神障害者地域移行ピアサポーター活用事業（受託）

施設長名…………… 澄田一志

フルタイム職員／パートタイム職員… 3人／2人（公益事業を含む）

名 称…………… 有田圏域基幹相談支援センターあねっと

事業種別…………… 基幹相談支援センター等機能強化事業（受託）

職 員 数…………… 1人

備 考…………… 和歌山県福祉事業団と共同受託 事業所は同事業団内

事業の種類…………… 公益事業

拠点区分「センター」

名 称…………… 有田地域生活支援センターつくし

事業種別…………… 在宅リハビリテーション推進強化事業（受託）

備 考…………… 本事業は第2種社会福祉事業の有田地域生活支援センターつくし
と一体的に運営し、会計も同一拠点区分として処理している。

3 定款変更の状況

令和7年6月27日付 基本財産の増加（有田川町庄の土地と既存建物）

4 役員・評議員の状況

役職 (役職毎50音順)	氏 名	就任年月日	就任要件の区分
理事長	西林久子	令和7年6月27日	社福事業の経営に識見を有する者
理 事	泉 秀和	令和7年6月27日	事業管理者
理 事	馬谷哲雄	令和7年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	刑部悦代	令和7年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	玉置春樹	令和7年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	長尾正子	令和7年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	野下康雄	令和7年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者

監 事	石田文雄	令和7年6月27日	財務管理に識見を有する者
監 事	三角 治	令和7年6月27日	社会福祉事業に識見を有する者
評議員	上続志津子	令和7年6月27日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	家本欣明	令和7年6月27日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	境 久	令和7年6月27日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	佐々木利純	令和7年6月27日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	竹中信義	令和7年6月27日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	田上耕司	令和7年6月27日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	棚野さえ子	令和7年6月27日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	東谷雅彦	令和7年6月27日	社福法人の適正運営に識見を有する者

5 評議員会・理事会開催状況

◇ 評議員会

定時 令和7年6月27日（出席：評議員6人・監事2人）

議事内容

- 1 令和6年度事業報告・決算について…………… 原案通り承認
- 2 定款の変更について…………… 原案通り承認
- 3 役員任期満了に伴う新任期の役員選出について…………… 原案通り承認

◇ 理事会

第1回 令和7年6月5日（出席：理事7人・監事2人）

議事内容

- （報告） 理事長職務執行状況の報告…………… 報告を確認
- （議決） 1 令和6年度事業報告・決算について…………… 原案通り承認
- 2 評議員選任・解任委員会の招集
及び同委員会に推薦する新任期の評議員候補について…………… 原案通り承認
- 3 新任期の評議員選任・解任委員の選出について…………… 原案通り承認
- 4 定時評議員会の招集について…………… 原案通り承認
- 5 定款の変更について…………… 原案通り承認
- 6 諸規程の変更について…………… 原案通り承認

第2回 令和7年6月27日（出席：理事6人・監事2人）

議事内容

- （報告） 理事長職務執行状況の報告…………… 報告を確認
- （議決） 1 理事長の選出について…………… 原案通り承認

第3回 令和7年11月13日（出席：理事6人・監事2人）

議事内容

- （報告） 理事長職務執行状況の報告…………… 報告を確認
- （議決） 1 令和7年度補正予算について…………… 原案通り承認

- 2 就業規則・規程の改定について…………… 原案通り承認
- 3 その他（調整手当支給）…………… 原案通り承認

第4回 令和8年3月26日（出席：理事6人・監事2人）

議事内容

- （報告） 理事長職務執行状況の報告…………… 報告を確認
- （議決） 1 令和7年度第2次補正予算について…………… 原案通り承認
- 2 令和8年度事業計画・予算について…………… 原案通り承認
- 3 諸規程の改定について…………… 原案通り承認
- 4 役員等賠償責任保険契約について…………… 原案通り承認
- 5 寄付金受入について…………… 原案通り承認
- 6 障害福祉従事者処遇改善等緊急支援事業の実施について…………… 原案通り承認

6 主務官庁による監査等実施状況

主務官庁	監査等実施日	対 象
和歌山県障害福祉課	令和7年12月2日	つくし共同作業所（運営指導）
同	同	法人（指導監査）

7 許可・認可・および承認に関する事項

なし

8 法人運営に関する特記事項

令和7年6月27日（定時評議員会終了時点）法人役員・評議員・評議員選任解任委員 任期満了
同日付で新任期役員・評議員・評議員選任解任委員 就任
同日の第2回理事会で新任期理事長を選出

9 運営の状況

◇ 法人運営

本年度も基本理念をふまえて障がい福祉事業者としての真摯な事業運営を行い、社会福祉法人として地域社会への貢献に務めた。

長く続いた新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）による社会混乱は収束し、当法人においてもコロナ前の通常運用に戻った。今回の得た知見も活かし、法人 BCP（業務継続計画）に基づき、感染症や災害などの事態へ備えた研修や準備を行った。

運営の主力である日中活動事業では、就労継続支援B型利用実績の減少傾向が続いており課題を残したが、一方で就労支援事業（生産活動）は堅調に推移し、特に農業分野は柑橘、山椒が大変好調だった。

経理面について、当法人は単年度で度々赤字を計上するなど不安定かつ財務基盤が脆弱で、同業・同種法人と比べて弱点であるが、本年度は増収その他の努力により活動増減差額（利益）を計上できた。今後も法人が安定・継続して運営できるように努める。

1、評議員会・理事会の開催

定時評議員会において前年度事業報告・決算の承認並びに新任期役員の選任、定款変更を行った。

理事会は計4回開催し、前年度事業報告・決算承認、評議員任期満了に伴う選任解任委員会招集、同委員の選任、定時評議員会の招集、定款・規程類の改定、予算補正、次年度事業計画・予算、保険契約、寄付金の受入などを議決した。（上記第5項参照）

2、事業の整備

各事業の運営は、法人事業計画に基づき、理事会で選任された事業所長の下で各職務の責任者・担当者による職責遂行や、管理者会議・常設委員会等の機能と権限を通じ、法令を遵守した真摯な運営と、課題発生時の迅速な対応を志向して整えている。

本年度は運営事業に形態や定員等に変更は無かった（支援センターで県受託事業に一部内容変更あり）。

共同生活援助が利用定員に達し新たな利用契約が難しいことから、新事業の基礎的検討を継続した。またつくし共同作業所は多機能型事業所としては部屋数が不足しており、解消方法について検討を継続した。

令和6年度に福祉事業用途に取得した不動産（土地・倉庫）について、本年度末時点で具体的な方策は決まっていない。

3、職員の資質・専門性の向上など

法人内研修（全職員対象）への参加・外部研修への参加と成果の共有を通じて職員の資質・専門性の向上に努めた。研修は事業所単位で年間計画を作成し、重要性和職員間の必要性・公平性などを考慮しながら行った。

法人内研修は虐待防止、身体拘束等の適正化、感染症対策について2回実施した。当日欠席職員は後日に動画（講師の講義を撮影したもの）閲覧とレポート提出を求め、研修内容を全職員が履修できる体制で行った。

外部研修はサービス管理責任者基礎研修を2名・実践研修を1名が修了した。また強度行動障害支援者基礎研修を1名・実践研修を2名が修了した。そのほか、人権擁護、利用者支援（グループホーム）、感染症対策、依存症、食品衛生管理などの分野に分担して参加した。

設置の義務付けられている虐待防止委員会・身体拘束等の適正化のための対策検討委員会・感染対策委員会を構成委員により4回ずつ開催し、その結果を職員に周知した。本年度は新たに地域連携推進協議会（共同生活援助事業において義務化）を開始した。

4、対外活動など

地域交流行事として「喫茶はやつき」「オリーブ秋まつり」を実施した。

社会福祉法人の地域における公益的な取組として「地域の高齢者家庭への昼食弁当無料提供事業」を行うとともに、和歌山県社会福祉協議会（県社協）による「制度の狭間にある福祉課題・生活課題解決への協同プロジェクト」にも参画した。

有田圏域障害者自立支援協議会（法定設置）の各分野分科会に参画した。

福祉業界団体では、社会福祉法人経営者協議会（経営協）、及び事業所単位で社会就労センター（セルフ：つくし作、早月、オリーブ）、農福連携協会（早月）、相談支援専門員協会（支援センター）に加盟を継続した。

情報発信として、誌面の「つくしだより」及びインターネットのホームページ、公的機関情報開示サイトで事業紹介や情報開示を行い、ブログ・フェイスブック・インスタグラム等により就労支援事業の販促を行った。ホームページは情報発信強化を目指して専門業者と契約し、令和8年度途中にリニューアル予定。

◇ 各事業

1、拠点区分「つくし」

「つくし共同作業所」(生活介護・就労継続支援B型)

「つくしんぼショート」(併設：日中一時支援)

①事業・定員

- ・生活介護(定員10)・就労継続支援B型(定員25)を多機能型として、及び併設事業として日中一時支援(つくしんぼショート：地域生活支援事業)を行った。

②支援内容

生活介護

- ・日常生活支援：毎日の体調チェック(看護職員)・体操、体重測定、定期的に散歩・買い物・公共施設利用・ドライブ・音楽療法・創作的活動など、及び服薬・食事・整容・排泄等の支援を行った。
- ・生産活動：生活介護班として主として企業からの下請け作業
- ・年間延べ利用者数は3,133人(前年度+179人 1日あたり12.0人→配置基準換算で8.8人 定員比88%)
- ・利用実績は、人数ベースで増えているが現行制度(利用時間に応じた換算)で定員を下回った。

就労継続支援B型

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練：家庭用品等の下請けやパン訪問販売・配達、さをり織りなど
- ・一般就労に向けた支援：施設外の実習、一般就労に至った事例は無かった。
- ・年間延べ利用者数は5,586人(前年度△234人 1日あたり21.4人 定員比85.6%)
- ・利用実績は、近年の減少傾向から引き続き本年度も減少した。支援学校卒業生の新規利用がしばらく途絶えており、また諸事情で長期間通所ができていない事例が複数あった。

事業間共通

- ・給食サービスを提供した。必要な利用者にはアレルギー除去食・刻み食を提供した。また、従来から引き続き、毎月全利用者の体重測定を行い、健康状態の推移をチェックした。
- ・外部医療機関による健康診断を1回行った。生活介護以外の利用者も体調把握のため毎月血圧・身体測定を行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練を2回行った。
- ・例年実施している近辺での忘年会に替わるものとして、初めて白浜でバイキングを楽しんだ。
- ・オリーブ秋祭りへの参加や法人内事業所合同で交流会を実施した。
- ・合計の年間延べ利用者数は8,719人、1日あたり利用者数は33.3人であった。
- ・送迎サービスの延べ利用回数は11,811回(片道1回の計算)、送迎利用率は67.7%であった。

日中一時支援

- ・つくし共同作業所の併設事業として開設を継続したが、利用実績は無かった。

③生産活動(生活介護・就労継続支援B型計)

<事業収益>

収益額合計 8,552,413円(前年度比89.6%)

下請け・さをり等……………6,687,217円(前年度比88.8%)

訪問販売……………1,865,196円(前年度比92.5%)

＜利用者工賃（給料）＞

配分額合計 8,084,604円（前年度比102.3%）

就労継続支援B型

平均月額…… 26,454円（前年度+1,453円） 県標準算出法による

年間最高額… 620,329円（年額で一番多かった方）

生活介護

平均月額…… 8,966円（前年度+55円） 県標準算出法による

- ・工賃実績は、就労継続支援B型・生活介護とも前年度を上回った。就労継続支援B型は翌年度月額区分4（25,000円以上）で前年度同等を維持したが、R8年6月以降基準が28,000円以上に変更され、月額区分5となる見込み。

下請け・さをり事業

- ・下請け作業として業者からの家庭用品・農家からの出荷用ダンボール組立、さをり織り、リサイクル作業としてアルミ缶ほか廃品類の回収・出荷作業、外部事業所の清掃請負を行った。また新たな試みとして焼き芋販売を開始した。
- ・収益は11.2%減であった。焼き芋はまだ試験段階で本年度は収益を左右する規模にまでいかなかった。

パン訪問販売事業

- ・有田圏域のうち主として有田市・湯浅町・広川町地区においてオリーブのパンの地域訪問販売を行った。収益は前年度比7.5%減であった。
- ・訪販を担当する利用者が少なく、販路の確保・拡大にも苦心した。

④その他

- ・当事業所は法人内の日中活動事業所で唯一生活介護を持つ多機能型として、どのような障がいがあっても通える場所を標榜してきた。
- ・一方事業所建物は多機能型事業所としては部屋割りやトイレ構造など使い勝手が良いとは言えず、支援体制が課題である。

2、拠点区分「早月」

「早月農園」（就労継続支援B型）

①事業・定員

- ・就労継続支援B型（定員20）を行った。

②支援内容

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練：農業に関する作業、パン訪問販売など。利用者は各活動について固定せず、当日の心身の調子などの状況を見て班分けを行った。
- ・農業の屋外作業について、夏季は暑さ対策を入念に行った。
- ・一般就労に向けた支援：施設外の実習、一般就労に至った事例は無かった。
- ・給食サービスを提供した。
- ・外部医療機関による健康診断を1回行ったほか、体調把握のため毎月血圧・身体測定を行った。また希望者にインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練を2回行った。
- ・地域交流を兼ねた「喫茶はやつき」を毎月実施したほか、忘年会や焼肉・ボウリングなどのレクリエーションを行った。またオリーブ秋祭りへの参加や法人内事業所合同で交流会を実施した。

- ・年間延べ利用者数は4, 566人（前年度+9人 1日あたり17.5人 定員比87.5%）
- ・利用実績はほぼ増減が無かった。
- ・送迎サービスの延べ利用回数は8, 850回（片道1回の計算）、送迎利用率は96.9%であった。

③生産活動

<事業収益>

収益額合計 24, 674, 954円（前年度比113.9%）

農業……………23,016,731円（同114.7%）

訪問販売……………1,658,223円（同102.9%）

<利用者工賃（給料）>

配分額合計 11, 300, 622円（前年度比119.2%）

平均月額……………53,812円（前年度+8,443円） 県標準算法による

年間最高額……………949,434円（年額で一番多かった方）

- ・工賃実績は過去最高を更新し、翌年度月額区分1（45,000円以上→6月以降の基準は48,000円以上の最上位ランク）を前年度に引き続き達成した。

農業事業

- ・借り受けた果樹園によるみかん・はっさく・梅・山椒等の栽培、露地・ビニルハウスによる野菜類栽培を行い、出荷、販売した。
- ・本年度も引き続き柑橘類の相場が良く、また本年度は山椒が好調で、大幅な増収になった。
- ・収穫物を利用した自主製品はジャムを中心に製造し販売した。

パン訪問販売事業

- ・有田圏域のうち主として有田川町地区においてオリーブのパンの地域訪問販売を行なった。

④その他

- ・果樹園は広大かつ専門知識が必要なため、引き続き専属の就労支援事業指導員の雇用に加え業務の一部を地域住民に委託した。
- ・農業のリスクの一つである天候不順や台風等による大きな被害は幸い無かった。
- ・年末年始休暇中に農地近くで熊出没情報があり、以後スプレー所持など対応策をとるとともに地元自治体へも対策を要望した。当法人及び近辺での具体的な被害は無かった。
- ・農作業に従事する利用者の高齢化が進み体力面の負担を軽減する必要が高まっており、また衛生面での環境改善や品質向上に向けて、畑休憩室の手洗い場整備や農地・農機具等の整備が課題である。

3、拠点区分「オリーブ」

「カフェ&ベーカリー・オリーブ」（就労継続支援B型）

①事業・定員

- ・就労継続支援B型（定員20）を行った。

②支援内容

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練：「カフェ&ベーカリー・オリーブ」におけるパン等製造・店頭販売、喫茶運営、訪問販売・納品などをおこなった。
- ・一般就労に向けた支援：施設外の実習は無かった。
- ・給食サービスを提供した。必要な利用者にはメニューを工夫した。

- ・外部医療機関による健康診断を1回行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練を2回行った。
- ・地域交流を兼ねてオリーブ秋祭りを実施した。また店舗休日の支援日に簡単なレクリエーション活動を実施した。例年実施している近辺での忘年会に替わり、初めて大阪のなんばグランド花月へ観劇に行った。また、法人内事業所合同で交流会を実施した。
- ・年間延べ利用者数は4,483人（前年度+228人 1日あたり17.2人 定員比86.0%）
- ・利用実績は微増であった。
- ・送迎サービスの延べ利用回数は5,217回（片道1回の計算）、送迎利用率58.2%であった。

③生産活動

<事業収益>

収益額合計 37,036,525円（前年度比104.0%）

店頭販売……23,550,346円（前年度比109.0%）

カフェ……2,651,934円（前年度比112.3%）

卸ほか……7,460,465円（前年度比89.2%）

訪問販売……3,373,780円（前年度比102.7%）

<利用者工賃（給料）>

配分額合計 10,044,550円（前年度比107.9%）

平均月額……48,665円（前年度+1,073円） 県標準算法による

年間最高額……1,178,418円（年額で一番多かった方）

- ・工賃実績は前年度を上回り、翌年度月額区分1（45,000円以上→6月以降の基準は48,000円以上の最上位ランク）を前年度に引き続き達成した。

パン事業

- ・自家製生地によるパン及びクッキー、煎餅の製造・店頭販売、訪問販売、訪販を行う法人内他事業所への卸売、地域の店舗への納品・委託販売などを行った。
- ・店舗内に併設したカフェスペースで喫茶運営を行った。
- ・店舗の販促として、周年フェア（6月）やオリーブの日（毎月10日）を実施した。
- ・製造・販売を行う店舗という事業所の特徴を生かし、法人内事業所で最も一般就労の勤務に近い形態（繁忙時間帯を考慮した出退勤時間の設定など）で行った。
- ・収益は年度途中で価格改定を行ったこともあって店頭販売やカフェが伸び、全体で4%増であった。

④その他

- ・原材料費や光熱水費の高騰が続いており、やむを得ず8月に販売価格改定（値上げ）を行った。
- ・店舗は開店以来20年近くが経過し、多くの機器類が経年による更新時期を迎えている。故障がちな機器から少しずつ入れ替えているものの、今後も計画的な更新が必要がある。
- ・地域に競合店が増えてきており、店舗の美装・改修のほか付加価値を高める施策を行っているところである。またSNSなどを駆使しての宣伝・情報発信も積極的に行っている。今後も店として事業所としての魅力を高めていけるよう取り組む。

4、拠点区分「あっぷる」

「あっぷるホーム」（共同生活援助）

（併設：短期入所）

①事業・定員

- ・共同生活援助（定員13：男性7女性6の2住居）及び併設事業として短期入所（定員3：男性1女性2）を行った。

②支援内容

- ・夜間の支援について、引き続きキーパー（世話人・生活支援員）が各住居で夜勤として勤務した。
- ・短期入所の利用状況など必要に応じてキーパーを柔軟に増員配置し、また時折発生する緊急の医療機関受診や入院等にも対応できる体制で実施した。
- ・週1回看護師が勤務し、定期的に血圧等の体調チェックを行った。
- ・地域連携推進会議を実施し、ホーム運営に関する報告やホームの視察などを行った。
- ・外部医療機関による健康診断を1回行った（自らの職場等で行う方は除く）。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・独自のレクリエーション行事として、白浜や和歌山市の四季の郷公園へ出掛けた。
- ・消防・避難等訓練について2回行った。
- ・支援の課題や情報を共有するため、定期的に職員連絡会議（各キーパー及びサービス管理責任者・管理者）を開催した。
- ・入居者の内訳は、当法人の日中活動サービス利用者、及び一般就労者、他法人の日中活動サービス利用者であった。それぞれ必要な箇所と連絡を取り合い伝達事項等に注意した。
- ・共同生活援助の年間延べ利用者数は4,329人（1日あたり11.9人）であった。
- ・短期入所の年間延べ利用者数は183人（1日あたり0.6人）であった。

③その他

- ・共同生活援助は需要を把握しながらも入居定員に空きがない状況が続いている。また短期入所は、男性定員が1のため運用に融通が利かないのも課題である。

5、拠点区分「センター」

「有田地域生活支援センターつくし」（一般相談支援）

（特定・障害児相談支援）

（市町村相談支援事業）

（在宅リハビリテーション推進強化事業）

（精神障害者地域移行ピアサポーター活用事業）

「有田圏域基幹相談支援センターあねっと」（基幹相談支援センター等機能強化事業）

①事業・内容

一般相談支援、特定・障害児相談支援、受託事業として在宅リハビリテーション推進強化事業・精神障害者地域移行ピアサポーター活用事業及び市町村相談支援事業、基幹相談支援センター等機能強化事業を行った。担当職員で役割分担しつつ相互補完により運営合理化に努めた。

<一般・特定・障害児相談支援>

県指定の一般相談支援事業（地域移行・地域定着支援）、市町村指定の特定相談支援事業（計画作成）・障害児相談支援事業（計画作成・相談）を行った。

- ・一般相談支援：支援実績 0件（地域移行0件・地域定着0件）
- ・特定相談支援：計画作成実績 220件・モニタリング499実績件
- ・障害児相談支援：計画作成実績 4件・モニタリング実績7件

<在宅リハビリテーション推進強化事業>

和歌山県から受託を継続した。契約した各分野の専門職（下記）とともに地域の家庭や事業所などへ訪問して下記の活動を行った。障がい・つまづきの早期発見、早期療育の観点に務めた。

- ・在宅支援訪問リハビリ等指導事業（本年度実績 920件）

地域の家庭や施設・事業所などを訪問して、生活状況の把握、保育士による療育支援、理学療法士による機能訓練・発達観察、音楽療法士による音楽療法などの支援活動や各種相談など

- ・施設支援一般指導事業（本年度実績 15件）

地域の学校、保育所、障がい福祉事業所などを訪問して、保育士、理学療法士、音楽療法士による職員への各種助言・技術指導など

<精神障害者地域移行ピアサポーター活用事業>

和歌山県から新たに受託した。精神科病院に長期入院を継続している方の地域生活への移行の促進をすすめること、自身も入院経験等がある当事者「ピアサポーター」を地域で育成し、個別支援や啓発活動をおこなうことを目的としている。医療・福祉・行政等と連携しながら、下記の活動を行った。

- ・病院を訪問、退院意欲の喚起を目的にした入院患者との面談。病棟での行事への参加。
- ・圏域内の事業所、当事者に向け、県主催「ピアサポーター養成研修」への参加呼びかけ
- ・入院患者を対象に、ピアサポーター（入退院を経験した当事者）を招いての茶話会、地域資源体験ツアーの実施
- ・医療、福祉従事者のスキルアップのための研修の企画開催
- ・自立支援協議会との連携。地域の支援体制構築のための協議

<市町村相談支援事業>

有田地方各自治体（有田市・湯浅町・広川町・有田川町）から受託を継続した。和歌山県福祉事業団と共同で受託し、事業運営にあたっては同事業団「サポートセンターゆい」と連携し、役割を分担・協働し相談支援活動を行った。

- ・市町村相談支援（支援実績 185人・延べ2,358件：有田市67人・延べ804件、湯浅町50人・同620件、広川町23人・同361件、有田川町45人・同573件）

主な活動内容

福祉サービスの利用等に関する支援、障がいや病状の理解に関する支援、健康・医療に関する支援、不安の解消・情緒安定に関する支援、保育・教育に関する支援、家族関係・人間関係に関する支援、家計・経済に関する支援、生活技術に関する支援、就労に関する支援、社会参加・余暇活動に関する支援、権利擁護に関する支援、その他（県及び市町村自立支援協議会への参画・研修の企画運営等）

<基幹相談支援センター等機能強化事業>

有田地方各自治体（有田市・湯浅町・広川町・有田川町）から受託を継続した。和歌山県福祉事業団と共同で受託し「有田圏域基幹相談支援センターあねっと」を共同運営した。「あねっと」は同事業団が主体となって運営し、当法人から職員1名が担当として活動した。

事業計画に沿って、毎月の定例会議によって事例共有等を行いながら下記の活動を実施した。

主な活動内容

- ・相談支援の困難ケースへの対応
- ・圏域の自立支援協議会の運営
- ・各種相談機関との連携強化（連携会議の開催等）
- ・相談支援事業者の人材育成の支援（研修など）、専門的な指導・助言
- ・地域移行や各種制度の普及啓発

- ・その他圏域において専門的知見から必要と認められること
対応件数 1,541 件（うち当法人職員 449 件 ※他職員と重複対応有）

②その他

- ・県人材育成部会に参画。県の主催する研修の企画運営や講師を担った。
- ・NPO 法人わかやま相談支援専門員協会に参画し、他圏域の相談支援事業所との連携強化や情報交換を図った。

令和7年度 事業所行事等実施状況

つくし共同作業所(つ)、早月農園(早)、カフェ&ベーカリー・オリーブ(オ)、あつぷるホーム(あ)、支援センターつくし(セ)

4月～9月		10月～3月	
4月	4.1 花見(早) 4.19 喫茶はやつき(早) 4.29 有田市イベント販売(オ)	10月	10.2 安全運転管理者等講習(オ) 10.3 地震避難訓練(早) 10.4 オリーブ秋まつり(オ) 10.18 喫茶はやつき(早) 10.25 ひまわりわくわくまつり出店(オ) 10.27 有田つくし福祉会全体研修会
5月	5.14 消防立入検査(早) 5.11 レクリエーション 白浜(あ) 5.17 喫茶はやつき(早) 5.24 地域高齢者家庭配食活動(早) 5.27 監事内部監査	11月	11.2 ゆあさYYまつり販売・展示(つ) 11.10 健康診断(つ・あ) 11.13 第3回理事会 インフルエンザ予防接種(オ) 11.15 喫茶はやつき(早) 11.20 インフルエンザ予防接種(つ) 11.22 地域高齢者家庭配食活動(早) 11.26 インフルエンザ予防接種(早)
6月	6.5 第1回理事会 6.12 評議員選任解任委員会 6.19 保護者会総会 6.21 喫茶はやつき(早) 6.27 定時評議員会・第2回理事会	12月	12.1 健康診断(オ・早) 12.2 県運営指導(つ)・指導監査(法人) 12.8 利用者忘年会(早) 12.12 利用者忘年会(つ) 12.14 レクリエーション四季の郷(あ) 12.20 喫茶はやつき(早) 12.22 利用者忘年会(オ)
7月	7.8 労働局調査 7.14 後援会総会(つ・オ・早) 7.17 大雨警報発令臨時休所(つ) 7.19 喫茶はやつき(早) 7.26 地域高齢者家庭配食活動(早) 7.30 津波警報発令対応 7.28,29,31 県税車両運行調査(つ・早・オ)	1月	1.17 喫茶はやつき(早) 1.24 地域高齢者家庭配食活動(早) 1.26 避難訓練(オ)
8月	8.12 喫茶はやつき中止(早) 8.24 有田つくし福祉会交流会 8.26 安全運転管理者講習(つ・早)	2月	2.16 有田つくし福祉会全体研修会 避難訓練(オ) 2.21 喫茶はやつき(早) 2.24 消防設備点検(つ・早・オ・あ) 2.26 地震津波避難訓練(つ)
9月	9.18 火災避難訓練(消防立会)(つ) 9.19 地域連携推進会議(あ) 9.20 喫茶はやつき(早) 9.22 消防設備点検(つ・早・オ・あ) 9.26 防災・通報訓練(あ) 9.27 地域高齢者家庭配食活動中止(早) 9.28 やすらぎふれあいフェスタ販売・展示(オ)	3月	3.3 給食施設立入調査(つ) 3.13 避難訓練(あ) 3.21 喫茶はやつき(早) 3.23 消防訓練(早) 3.26 第4回理事会 3.28 地域高齢者家庭配食活動(早)